

桜蔭俳話会 十一月句会 (第三四〇回)

平成二十七年十一月十五日(日)

会場 旭区民文化センター(サンハート)

- 2点①秋時雨猫にみやげの朱のリボン 才美
- 2点①山の芋こんがらかつて黄葉す ツル子
- 2点①退院のセーターくるぶしが軽い 才美
- 2点 落葉掃く明日の落葉は考へず 秀一
- 2点 大水車山の秋声廻しをり 幸
- 2点 死は生の裏側にゐし冬桜 守
- 2点 祈る背を移る絵硝子秋入日 才美
- 1点①幼な子の確かな未来石露の花 守
- 1点①身の内のどこか魚跳ぬ今朝の冬 才美
- 1点①高齢の母より指令帰り花 友子
- 1点 胃カメラの予約を入れしそぞろ寒 ツル子
- 1点 ボサノバのささやくリズム枯葉舞ふ 守
- 1点 秋の暮れ同じ時刻に猫の来て ツル子
- 1点 短日やだんだん怖き童唄 才美
- 1点 未だ売れぬ空地の旗や末枯るる 秀一
- 1点 繕ひをする物も無き夜長かな 弘子
- 1点 冬仕度探し物より始まりぬ 弘子
- 1点 外出の予定変更大根煮る 秀一
- 1点 喰いつきて離れぬ百足秋の闇 幸
- 1点 落葉して明るき道や歩の早し ヤエ子
- 1点 冬晴やバスへ二台の乳母車 秀一
- 1点 流し台磨き勤労感謝の日 秀一
- 1点 リス飛んで桜紅葉の鎌倉路 幸

※

- 落ちる柿小さき手の中ナイスキャッチ ヤエ子
- 緊張の和服の母や七五三 友子
- 赤い屋根透ける林の黄落期 弘子
- 帰国子の無事を祈りし布団干す ツル子
- 稲の波遙か向かうの青き海 ヤエ子
- 置炬燵介護疲れの身を解く 守
- 七五三蝶ネクタイの甘えん坊 友子
- 待つ人の元へせかるる初時雨 友子
- 猫の毛の模様モダンや杜鵑草 ヤエ子
- 冬日和足の痛みを忘れをり 友子
- 裸木の西の空つくシルエット ツル子
- 宿坊の小暗き廊下暮の秋 弘子

柿落葉どの一枚も捨てられず 弘子
 大利根や風に乗りたる鷹一つ 守
 濁る川遡りゆく鴨三羽 ヤエ子
 (不在投句 荒木ツル子、稲葉幸)

〔事務局からお知らせ〕

○十二月句会
 ・日時 十二月二十日(日) 午後一時から。
 ・場所 旭区民文化センター(サンハート)
 ○一月句会
 ・日時 一月二十四日(日) 午後一時から。
 ・場所 旭区民文化センター(サンハート)